

山形県立新庄病院総合診療専門研修プログラム（概要）

1 新庄病院総合診療専門研修プログラムについて

現在、地域の病院や診療所の医師が、かかりつけ医として地域医療を支えています。今後の急速な高齢化等を踏まえると、健康にかかわる問題について適切な初期対応等を行う医師が必要となることから、総合的な診療能力を有する医師の専門性を評価するために、新たな基本診療領域の専門医として総合診療専門医が位置付けられました。

山形県立新庄病院総合診療専門研修プログラムは、病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ER型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的に創設しました。

臨床研修臨床研修指定病院、地域がん診療連携拠点病院等の指定を受け、令和5年10月には地域救命救急センターを開設した、当県立新庄病院が専門研修基幹施設として内科や小児科も含んだ総合診療及び高次救急医療の研修を実施し、また、訪問診療や在宅医療については最上地域の公立病院・診療所の協力を得ながら研修することとしており、様々な医療機能の特長を活用し、総合診療専門医を育成していく環境を整えています。

本研修プログラムでは、

- ① 総合診療専門研修Ⅰ（外来診療・在宅医療中心）
- ② 総合診療専門研修Ⅱ（病棟診療、救急診療中心）
- ③ 内科
- ④ 小児科
- ⑤ 救急科

の5つの必須診療科と選択診療科で3年間の研修を行います。

このことにより、

- i 包括的統合アプローチ
- ii 一般的な健康問題に対する診療能力
- iii 患者中心の医療・ケア
- iv 連携重視のマネジメント
- v 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ
- vi 公益に資する職業規範
- vii 多様な診療の場に対応する能力

という総合診療専門医に欠かせない7つの資質・能力を効果的に修得することが可能になります。

本研修プログラムは専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群で行われ、それぞれの特徴を生かした症例や技能を広く、専門的に学ぶことができます。

2 総合診療専門研修はどのように行われるのか

(1) 研修の流れ

総合診療専門研修は、卒後3年目からの専門研修（後期研修）3年間で構成されます。

ア 1年次修了時には、患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定することを目標とします。主たる研修の場は内科研修となります。

イ 2年次修了時には、診断や治療プロセスも標準的で患者を取り巻く背景も安定しているような比較的単純な健康問題に対する的確なマネジメントを提供することを目標とします。

ウ 3年次修了時には、多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあったり、患者を取り巻く背景も疾患に影響したりしているような複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供することができ、かつ指導できることを目標とします。主たる研修の場は総合診療研修Ⅰとなります。

エ また、総合診療専門医は日常遭遇する疾病と傷害等に対する適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を提供するだけでなく、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組むことが求められますので、総合診療専門研修Ⅰ及びⅡにおいては、後に示す地域ケアの学びを重点的に展開することとなります。

様々な研修の場において、定められた到達目標と経験目標を常に意識しながら、同じ症候や疾患、更には検査・治療手技を経験する中で、徐々にそのレベルを高めていき、一般的なケースで、自ら判断して対応あるいは実施できることを目指していきます。

(2) 専門研修における学び方

ア 臨床現場での学習

職務を通じた学習（On-the-job training）を基盤とし、診療経験から生じる疑問に対してEBMの方法論に則って文献等を通じた知識の収集と批判的吟味を行うプロセスと、総合診療の様々な理論やモデルを踏まえながら経験そのものを省察して能力向上を図るプロセスを両輪とします。その際、学習履歴の記録と自己省察の記録を経験省察研修録（ポートフォリオ：経験と省察のプロセスをファイリングした研修記録）作成という形で全研修課程において実施します。

また、多職種カンファレンスに積極的に参加し、連携方法を学びます。これらの学習方法を、外来医療、在宅医療、病棟医療、救急医療、地域ケアの現場で常に実践します。

(ア) 外来医療

経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。外来診察中に指導医への症例例示と教育的フィードバックを受ける外来教育法（プリセプティング）

などを実施します。また、指導医による定期的な診療録レビューによる評価、更には、症例カンファレンスを通じた臨床推論や総合診療の専門的アプローチに関する議論などを通じて、総合診療への理解を深めていきます。

(イ) 在宅医療

経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。初期は経験ある指導医の診療に同行して診療の枠組みを理解し、次第に独立して訪問診療を提供し経験を積みみます。外来医療と同じく、症例カンファレンスを通じて学びを深め、多職種と連携して提供される在宅医療に特徴的な多職種カンファレンスについても積極的に参加し、連携の方法を学びます。

(ウ) 病棟医療

経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。入院担当患者の症例提示と教育的フィードバックを受ける回診及び多職種を含む病棟カンファレンスを通じて診断・検査・治療・退院支援・地域連携のプロセスに関する理解を深めます。

(エ) 救急医療

地域救命救急センターで幅広い経験症例を確保します。

(オ) 地域ケア

地域医師会の活動を通じて、地域の実地医家と交流することで、地域包括ケアへ参画し、自らの診療を支えるネットワークの形成を図り、日々の診療の基盤とします。さらには産業保健活動、学校保健活動等を学び、それらの活動に参画します。参画した経験を指導医と共に振り返り、その意義や改善点を理解します。

イ 臨床現場を離れた学習

(ア) 総合診療の様々な理論やモデル、組織運営マネジメント、総合診療領域の研究と教育については、関連する学会の学術集会やセミナー、研修会へ参加し、研修カリキュラムの基本的事項を履修します。

(イ) 医療倫理、医療安全、感染対策、保健活動、地域医療活動等については、日本医師会の生涯教育制度や関連する学会の学術集会等を通じて学習を進めます。地域医師会における生涯教育の講演会は、診療に関わる情報を学ぶ場としてのほか、診療上の意見交換等を通じて人格を陶冶する場として活用します。

ウ 自己学習

(3) 専門研修における研究

専門研修プログラムでは、最先端の医学・医療を理解すること及び科学的思考法を体得することが、医師としての幅を広げるため重要です。また、専攻医は原則として学術活動に携わる必要があり、学術大会等での発表及び論文発表を行うこととします。

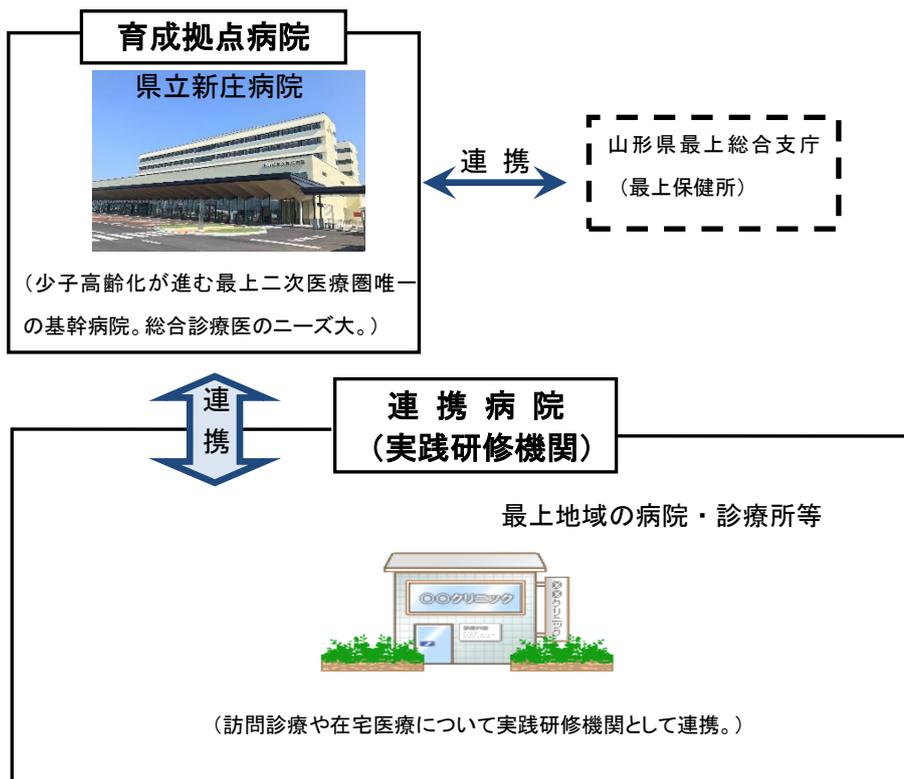
新庄病院では、東北大学や山形大学との多施設共同研究が常に進行しており、本研修プログラムでも、臨床研究に携わる機会を提供する予定です。研究発表についても経験ある指導医からの支援を提供します。

3 施設群による研修プログラム

本研修プログラムでは新庄病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに施設群を構成しています。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。ローテート研修にあたっては以下の構成となります。

- (1) 総合診療専門研修は、診療所・中小病院における総合診療専門研修Ⅰと病院総合診療部門における総合診療専門研修Ⅱで構成されます。本研修プログラムでは新庄病院において総合診療専門研修Ⅱを6か月、最上二次保健医療圏内の病院または診療所にて総合診療専門研修Ⅰを6か月、合計で12か月の研修を必修とします。
また、総合診療専門研修ⅠもしくはⅡの選択研修期間を設け、合計6か月の範囲で専攻医の意向を踏まえて決定します。
- (2) 必須領域別研修として、新庄病院にて内科12か月、小児科3か月、救急科3か月の研修を行います。

体制は以下のような形になります。



4 施設群における専門研修コースについて

以下に本研修プログラムの施設群による研修コース例を示します。

研修1年目は基幹施設である新庄病院での総合診療専門研修Ⅱ（3か月）、内科（9か月）を実施します。

2年目は新庄病院での内科（3か月）、救急科（3か月）の領域別必修研修、総合診療専門研修ⅠもしくはⅡの選択研修（6か月）を実施します。

3年目は最上地域の病院・診療所において総合診療専門研修Ⅰ（6か月）、新庄病院にて小児科（3か月）の領域別必修研修、総合診療科Ⅱ（3か月）を行います。

○ ローテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	新庄病院 総診Ⅱ（3か月）			新庄病院 内科（9か月） ※次年度に続く								
2年目	新庄病院 内科（3か月） ※前年度から続き			新庄病院 救急科（3か月）			総診Ⅰまたは総診Ⅱ から選択（6か月）					
3年目	最上地域の病院・診療所 総診Ⅰ（6か月）						新庄病院 小児科（3か月）			新庄病院 総診Ⅱ（3か月）		